

臺灣新竹の蚯蚓 I.

小林 新 二 郎

京城景福公立中學校

臺灣の貧毛類の調査は極めて遅れてゐる。僅に *Pheretima Takatorii* 及び *Ph. candida* が五島及び畑井¹⁾に依り、*Ph. formosae* 及び *Ph. papulosa sauteri* が MICHAELSEN²⁾に依り、*Ph. sp.* が高橋³⁾に依り報ぜられてゐるに過ぎない。

新竹中學校の山中正夫氏、同校生川崎淺治及び新垣盛正兩君の絶大なる御好意に依つて 1938 年 1 月より本年 1 月に至る 1 年間の毎月、新竹及びその附近の蚯蚓を採集の上送つて頂いた。

以下數回にわたり月別に各種の簡單なる記載をなし、同地方の貧毛類相の概略を豫報的に報告する事とする。⁴⁾

2 月分

1. *Pheretima formosae* MICHAELSEN 1922

1922 *Ph. f.*, MICH., *Capita Zool.*, I, 3, pp. 39—41, fig. 12.

大形、300mm 内外 (原記載のものは 173mm)、背面は燻んだ褐色、腹面は灰白色、側面に於て之等の色がぼかした様に交はる。環帶は淡いチョコレート色、14—16 節を占め、剛毛なし。受精囊孔は 4 對、5/6—8/9 の背面に接近して開く (5 節と 6 節との間の溝を 5/6 を以て表はす、以下之に準ず)。雄性孔は 18 節の腹側面にある顯著なる隆起上に開く。雄性孔及び受精囊孔附近には屢々不顯著なる生殖突起が見られる。精巢囊及び貯精囊は夫々 10 及び 11 節に 1 對宛のみ。⁵⁾

分布：新竹市、甲仙庄 (原記載には Dorf Koseypo, 北緯 23°8', 東經 120°35' とあり、第 5 番目の種類 *Ph. papulosa sauteri* の産地も同じ經緯度で Dorf Kosenipo と記してあるが、前書の y は m の誤植で、共に高雄州の甲仙庄であると思ふ)。

備考：43 個體 (成熟 34, 未成熟 9)。受精囊孔の位置、精巢囊及び貯精囊が全く特異である爲め容易に同定する事が出来る。

2. *Pheretima Takatorii* (GOTO et HATAI) 1898

1900 *Ph. T.* (= *Ph. aspergillum*), MICHAELSEN, *Tierrich, Oligochaeta*, p. 318.

中或は大形 (原記載のものは 314mm であるが手許にある標本には 300mm に達するものなし)。背面黒褐色、腹面灰色。環帶は黄—黒味がゝつた褐色、14—16 節、剛毛なし。受精囊孔は 2 對、7/8 及び 8/9 の腹側面、多くの場合夫れ等各孔の後縁 (即ち次節の上縁) に 2—3 個の、時には數個の微小なる生殖突起を伴ふ。雄性孔は 18 節の腹側面にある顯著なる隆起上に開く。その隆起上には雄性孔の腹方、剛毛線を挟んで上下に各々 4 個宛の生殖突起が雄性孔の線を底とする二等邊三角形の様に排列してゐる。

分布：臺北市、新竹市

1) 1898, *Ann. Zool. Jap.*, II;

2) 1922, *Capita Zool.*, I, 3;

3) 1932, 本誌 44, 527 (記載事項より判斷するに *Ph. harayana* (ROSA) 1891 であらう)

4) 3 月分の中の 1 種 *Perionyx excavatus* E. PERRIER に就ては既に東北帝大理科報告, 1938 8, 2, にその詳細を報告した。

5) 本属の大部分の種類に於ては 10, 11 及び 11, 12 節に夫々 2 對宛あり。

備考: 30個體 (成 19, 未成 11)。MICHAELSEN は *Ph. aspergillum* (E. PERRIER) 1872 のシノニムとしてゐるか吟味を要する。

3. *Pheretima rockfelleri* CHEN 1933

1935 *Ph. r.*, GATES, Lignan Sci, Jour., XIV. pp. 454—455

小—中形。淡いチョコレート色の環帯を除き一様に青白。環帯は 14—16 節, 夫れ等各節の腹面に顯著なる剛毛列が認められる。受精囊孔は 3 對, 5/6—7/8 の腹側面。雄性孔は 18 節の腹側面にある顯著なる小突起上に開く。生殖突起は 8 及び 17 節の腹面に夫々 2 對宛, 何れも顯著。精巢囊は極めて大, 反對に貯精囊は小。

分布: 浙江省, 香港, 新竹市

備考: 18 個體 (成 9, 未成 9)。一見 *Ph. papulosa sauteri* 及び體色の褪せた *Ph. hupeiensis* に似てゐるが, レンズを使用すれば容易に區別出来る。

4. *Pheretima diffringens* (BAIRD) 1869

1938 *Ph. d.*, KOBAYASHI, Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., Biol., XIII, 2, pp. 158—161

小—中形。背面栗色, 腹面灰白色。環帯はチョコレート色, 14—16節, 剛毛なし。受精囊孔 4 對, 5/6—8/9 の腹側面。7 及び 8 節, 時には 6 及び 9 節にも 1 對宛の生殖突起。雄性孔は 18 節の腹側面の小隆起上に開き, その上に 1—2 個の生殖突起を伴ふ事が多い。略々 3—7 節上の剛毛は他より大きく, 腹面中央より側方のものに至るに従ひ間隔及び大きさが漸次小となる。

分布: 世界的 (日本, 支那, ハワイ諸島, 南—中—北米, アゾレス, スンダ諸島, ニューカレドニア, コモロ諸島, ケープベルド諸島, インド, マダガスカル, ドイツ)

備考: 17 個體 (成 3, 未成 14); 他に本種と思はれる幼體 14 あり。

5. *Pheretima papulosa* (ROSA) *sauteri* MICHAELSEN 1922

1922 *Ph. p. s.*, MICH Capita Zool., I, 3, pp. 26—28, fig. 4.

分布: 新竹市, 甲仙庄 (Dori Kosempo—*Ph. rockfelleri* の項参照)。

備考: 一見 *Ph. rockfelleri* に酷似してゐるが, より小形である事, 生殖突起は極めて小さく而も多数で, 8, 17 及び 18 節 (時には 19 節にも) の各節の腹面に稍: 不規則に横に排列してゐる等の點から容易に區別される。*Ph. p. typica* は夫れ等の生殖突起の数が *sauteri* よりも多い, 即ち前者に於ては各節に約 50, 後者に於ては約 15—20。*typica* の分布: スマトラ, ビルマ, マレー半島。成熟體 3。

6. *Pheretima hupeiensis* (MICHAELSEN) 1895

1938 *Ph. h.*, KOBAYASHI, Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ., Biol., XIII, 2, pp. 152—153

中形。淡いチョコレート色の環帯を除き緑色乃至黄緑色, 背部正中線の色は濃い。環帯 14—16 節, 夫れ等各節の腹面に剛毛並ぶ。一般に剛毛數大。受精囊孔は 3 對, 6/7—8/9 の腹面には比較的接近して開く。雄性孔は 18 節の腹面 (受精孔の線) にある不顯著なる小突起上に開く。雄性孔の線に近く, 17/18 及び 18/19 上に 2 對の顯著なる生殖突起が常に見られる。本屬の大部分の種類に於ては缺除するか或は痕跡的である隔壁 8/9 が正常に發達してゐる。

分布: 本州, 四國, 九州, 朝鮮, 南及び中部滿洲, 中及び南支那 (恐らく北支も); (北米の温室にも見出されてゐる)。

備考: 未成熟體 2。糞ミ、ズと呼ばれ, 手に付いた悪臭は仲々取れない。魚釣には適しない。

7. *Pheretima* sp. I

40mm 足らずの小形種。新種の様であるが僅に 1 個體 (成熟) で, 體内に相當の寄生虫が見られる故, 記載は將來に譲る。

8. *Pheretima* sp. II.

他の種類とは異なるも 1 個體 (成熟) で然も頭部が破砕されておる爲め同定困難。但し, 江蘇省及び浙江省産の *Ph. leucocirca* CHEN 1933 に似てゐる。